

MACF 礼拝説教要旨

2021年6月20日

「共に生きるということ」
～キリストが死なれたほどのあなたという存在～

ローマの信徒への手紙 14章1節～15節

14:1 信仰の弱い人を受け入れなさい。その考えを批判してはなりません。

14:2 何を食べてもよいと信じている人もいますが、弱い人は野菜だけを食べているのです。

14:3 食べる人は、食べない人を軽蔑してはならないし、また、食べない人は、食べる人を裁いてはなりません。

神はこのような人をも受け入れられたからです。

14:4 他人の召し使いを裁くとは、いったいあなたは何者ですか。召し使いが立つのも倒れるのも、その主人によるのです。

しかし、召し使いは立ちます。主は、その人を立たせることがおできになるからです。

14:5 ある日を他の日よりも尊ぶ人もいれば、すべての日を同じように考える人もいます。それは、各自が自分の心の確信に基づいて決めるべきことです。

14:6 特定の日を重んじる人は主のために重んじる。

食べる人は主のために食べる。神に感謝しているからです。

また、食べない人も、主のために食べない。

そして、神に感謝しているのです。

14:7 わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人はなく、だれ一人自分のために死ぬ人もいません。

14:8 わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。

14:9 キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きている人にも主となられるためです。

14:10 それなのに、なぜあなたは、自分の兄弟を裁くのですか。また、なぜ兄弟を侮るのですか。

わたしたちは皆、神の裁きの座の前に立つのです。

14:11 こう書いてあります。「主は言われる。『わたしは生きている。

すべてのひざはわたしの前にかがみ、すべての舌が神をほめたたえる』と。」

14:12 それで、わたしたちは一人一人、自分のことについて神に申し述べることになるのです。

14:13 従って、もう互いに裁き合わないようにしましょう。むしろ、つまずきとなるものや、妨げとなるものを、兄弟の前に置かないように決心しなさい。

14:14 それ自体で汚れたものは何もないと、わたしは主イエスによって知り、そして確信しています。汚れたものだと思うならば、それは、その人にだけ汚れたものです。

14:15 あなたの食べ物について兄弟が心を痛めるならば、あなたはもはや愛に従って歩んでいません。

食べ物のことで兄弟を滅ぼしてはなりません。キリストはその兄弟のために死んでくださったのです。

+++++

1) 「裁く」という態度

当時の教会の中には「伝統的なユダヤ教からキリスト者になった人」と「ユダヤ教の伝統の外で生活していてキリスト者になった人」がいました。最初のうちエルサレムの教会はユダヤ教からキリスト者になった人たちが多く、その伝統的な教えや考え方、習慣がそのまま教会に持ち込まれました。

ところがその伝統を知らない人たちがイエス様を信じて教会に関わるようになってきてから、ユダヤ教徒がもっていた感覚と違う雰囲気を持ち込まれることになりました。

いわゆる文化的衝突が起こったわけです。

その代表的な事柄は「祝祭日の取り扱い」「食べ物の問題・肉は食べて良いのか、それとも野菜だけ食べることは良いのか」でした。

この食べ物の問題は「肉が異教の神々に捧げられその祭司によって祈られてから市場に出てきたものなので、汚れたもの」という考えを持ったクリスチャンが多くいたのです。しかし、異教徒として育ちクリスチャンになった人にとっては何も問題を感じませんでした。むしろ問題提起されて困ったと感じたかもしれません。彼らはそれらの問題を「裁き合う」材料にしたのです。しかも、それによって「強い人・弱い人」という差別を生み出しました。

2) 「気にいるか、気に入らないか」

「裁き合う」と言いますが、これは訴訟を起こすとかではなく、むしろ土台にあるのは「気にいるか、気に入らないか」という判断だったと思います。

そこで

「批判しあう」「軽蔑する」「裁く」「侮る」などの言葉で表現されています。

「気に入るか、入らないか」を土台にそこにいる人たち、本来は仲間であり、キリストによって選ばれた兄弟であるはずの人たちを差別し、区別し、軽蔑しあうことが頻繁に起こっていました。

しかも、自分たちの気に入る内容を他の人たちに強要することもあったようです。

聖書にはっきり語られている内容であれば、気に入るとか気に入らないとかに関係なく断言することができるでしょう。例えば、「十戒」を踏み躪るようなことは決して正しいことではありません。

しかし、どちらかといえば、些細なことに思えたり、明確に聖書の中に書かれていない内容について、単純に絶対的な態度を取って相手を見下したり、裁いたりすべきではありません。むしろ、互いに配慮しあう意識が必要です。

私が少年時代、礼拝での演奏はオルガンでなされるべきか、ピアノでなされるべきかが問題になり教会が分裂する騒ぎになった事例があったと聞きました。

教会の礼拝でギターが比較的自由に使えるようになったのは、日本では私が大学を卒業してからのことでした。それも問題の火種になったことがありました。

しかし、それらの分裂騒ぎの発端は「聖書の教える他者への配慮の欠如」からであり「気に入るか、気に入らないか」にあったように思います。

悲しい出来事です。

3) キリストは受け止め、受け入れておられる (イエス・キリストは主)

思い出すべきことは、教会を構成している人たちには、いろいろな背景があり、いろいろな好みを持った人たち、ひとりひとは「キリストに愛され、キリストが受け入れてくださった人たち」だということです。

「弱い人」と呼ばれる人の中にもとんでもなく頑固な人があり、「強い人」の中にも「とても優しい人」もいます。

私たちは、互いがキリストによって生かされている存在であることを認める必要があります。キリストこそ私たちの主、キリストこそすべての「主」であるということをしっかり認めなければなりません。そして、私たちはキリストと心をひとつにして生きることが求められている

のです。

キリストがそうであったよう、私たちもその生き方をキリストに倣う生き方をするので。その意識こそ、「気に入る、気に入らないという出来事での差別」で分裂を生み出さないための秘訣です。

4) キリストはその兄弟のために死なれた
私たちがしっかり心に留めるべき言葉の中心がここにあります。

14:15 あなたの食べ物について兄弟が心を痛めるならば、あなたはもはや愛に従って歩んでいません。

食べ物のことで兄弟を滅ぼしてはなりません。
キリストはその兄弟のために死んでくださったのです。

お互いは「キリストが死なれるほど愛してくださった兄弟姉妹」なのだということです。そして、この「食べ物」という箇所自分がこだわりを持つ

いわば副次的な内容について「言葉を入れ替えてみる」と良いかもしれません。

14:15 あなたの食べ物（態度・口癖・習慣など）について兄弟が心を痛めるならば、あなたはもはや愛に従って歩んでいません。

食べ物（態度・口癖・習慣などなど）のことで兄弟を滅ぼしてはなりません。
キリストはその兄弟のために死んでくださったのです。

気づかないうちに他者に押し付けたり、極端な判断をくだすことでキリストに愛されている兄弟を傷つけないようにしましょう。

「日本文化に親しみながら生きること」は決して罪ではないでしょう。

でも、それをどちらにせよ、強要することは良いことではありません。

多くの日本人は「お墓」をどうしたら良いか悩んでいます。

お寺にあるお墓をどうしたら良いか。

結論の出し方はそれぞれです。

決して無理強いはずべきではないでしょう。

お花やお茶の作法、お辞儀というしきたり、それらもまた、全否定すべきではないと思います。また、それをしたから、しなかったからということでキリストから離れたとか、捨てられるとかいう恐れを持つ必要はないことです。

宣教師の方々はキリスト教宣教の際、自分の国の教会の文化も一緒に持ってきました。おそらく、それほど気にせず、自分の国での出来事を日本人に「教育的な意味で押し付けた面がある」と思います。

もちろん、すべてが悪いことではなかったはず

です。しかし、それがキリストの福音から人を遠ざける素材になった部分もあるように思います。

三味線や箏での讃美歌がないことに私はある時期、違和感をもっていたことがあります。あるいは、音頭というリズムでの讃美歌がないことも・・・。

お寺には絶対に行くなとか、鳥居の下をとおるなとか・・・なんでも自由とはいえませんが、よくよく吟味して理解を深める努力は必要であり、互いに納得する必要があると思います。

まだまだこの国に福音が根付くためには、考えるべき部分がたくさんあるように感じます。

不要な差別化は危険です。

MACF に来ているのだから歌声ペトラの曲を知らないと肩身が狭いとかいう気持ちにさせてしまったことがあるとすれば、それは決してイエス様が喜ぶ出来事ではありません。

お互いが足りなさを持って生きています。でも、お互いが「キリストに愛され、キリストが死なれたほどの存在であることを覚えつつ、生きたいものです。

気にいる、入らないで人を裁いたり、軽蔑したりしないように気をつけましょう。

キリストが死なれたほどのあなたは、キリストにとっても、私にとっても実に尊い存在です。

意見の違うことがあるとしても、です。

+++

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/cv6aDEWFh-w>